

専任教員より

最近、立て続けに観た映画は、どれも実際にあったことが映画化されたもので、事実の力に圧倒される思いでした。

知的障害のある20代から50代の4人の男性がバンドを組み、作詞作曲をしてメジャーデビュー、ヨーロッパ各地に演奏旅行に出かける…『パンクシンドローム』は、パンク・ミュージックが盛んなフィンランドの下キュメンタリー映画です。洋服の“縫い目”にこだわりのあるメンバー、ミュージシャンとして対等に接するマネージャー、楽譜が読めなくても演奏ができる工夫、仲間どうしの喧嘩と和解、そして成長…固定的なファンがつき、ヒットチャートにランキングされている実力派で「知的障害だからパーティが開けない、コーヒーが飲めない」など、日頃の不満を訴える歌詞と演奏には迫力があります。グループホームや自宅などそれぞれの生活、性のこと、彼女との時間なども描かれ、「北欧の福祉」が実感されます。ドキュメンタリーであることを忘れて、ストーリーの展開にすっかりひきつけられてしまいました。

ポーランド映画『幸せのありか』は子役と青年の俳優が、重度の身体障害のためにコミュニケーションが難しい男性を演じています。周囲の人に気持ちを理解されないもどかしさが色々な角度から描かれ、本人の辛さ、悔しさが伝わってきます。家族介護が限界に達し、知的障害者が暮らす施設に入るようになって何年かたったある日、訓練士が彼のまばたきで意思疎通できることを発見し、生活は大きく変わっていきます。コンピューターを使って文章を書き、趣味の天体観察をして生活を楽しむまでになった時、「知的

社会福祉士養成所

専任教員 中野恵美子



障害ではない」ことを理由に施設を出るようによわれます。そこで彼がとった行動は…最後は長く暮らしてきた施設に戻り、施設の仲間たちに温かく迎えられるシーンで終わるのですが、前半ではややネガティブに描かれていた施設が、最後の場面では彼が選択した生活の場として肯定的に描かれていたこと、背景として20世紀後半のポーランド社会の変動が克明に描かれていたことが、強く印象に残りました。

イギリス映画『パレードへ ようこそ』はサッチャー政権下のイギリスが舞台の、これも本当にあった話取材して映画化された作品です。国営炭鉱の廃止をめぐるストライキに入った町に、警官隊が繰り出していく報道を見たロンドンの同性愛者たちが、炭鉱労働者を支持する活動をはじめます。「サッチャーにいじめられているという点では、自分たちと同じだ」と、LGSM（炭鉱労働者を支える同性愛者の会）という団体をたちあげ、イベントを企画して多額のカンパ集め、炭鉱に届けます。同性愛者と炭鉱労働者という一見、異質に見えるグループが、偏見や対立、葛藤を乗り越えて、理解し連帯を深めていく…最後の場面は本当に感動的で、心が揺さぶられるものでした。

「世界を知る」には、様々な方法があります。福祉を志すわたしたちこそ、様々な文化や芸術に触れて、心豊かに生きたいものだとつくづく思いました。

養成所ニュース

第27期生240名が受講スタート!

「第27期・新受講生を迎えて」

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

第27期生の皆様、社会福祉士養成所へのご入学、おめでとうございます。

また、第27回社会福祉士国家試験を受験し、難関を突破されて合格された修了生の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

さて、平成24年10月に障害者虐待防止法が施行され、昨年2月に国連障害者権利条約に批准する等、最近のわが国の社会福祉情勢は障がいのある方の権利擁護と人権尊重に重点が置かれています。さらに来年度には障害者差別解消法が施行される予定となっており、今後ますます、障がい者の権利の実現と人権尊重への取り組みが強化されることになります。

そのような中にありながら、いまだ施設・事業所における虐待事件が報道されるなど、誠に残念ではありますが、法が整備されてもおお、虐待根絶への切実な願いはかなえられず、障がい特性等による支援困難事例が増加傾向にある中で、障がいのある方の最も身近にいる支援者の責務と専門職としての役割がますます重要となっています。

皆さんが目指す社会福祉士は、ソーシャルワークの担い手として、支援を必要とする方の権利擁護を推進するための役割が与えられており、その専門的知識や技術を現場において実践することが求められます。

今後は今まで以上に、社会福祉士を中心とした専門職が必要とされ、その力量が試される時代となります。本養成所での学習を通して、ソーシャルワークの価値や倫理、専門的知識と技術を身につけ、社会福祉士として活躍されることを期待しています。

家庭や家事等と多忙な中で受講される方が多いと思いますが、目標に向かって互いに励まし合い、邁進されることを心からお祈り申し上げます。



所長 橘 文也

●通信教育 Q&A 受講生の方からよくある問い合わせについてお答えします。

Q₁ 引越して住所が変わったのですが?

- A ●住所・氏名・勤務先に変更が生じた場合には、すみやかに住所・氏名・勤務先変更届により届出てください。
●上記変更は本養成所ホームページの登録変更フォームより変更することも可能です。
●住所を変更した場合は、上記届出とあわせて、郵便局にて転送手続きを行ってください。

Q₂ 修了証明書を請求したいのですが?

- A ●国家試験の受験等、本養成所修了後に修了証明書が必要な場合は、次の2点を用意し、本養成所庶務部にて請求してください。
①修了証明書交付願(受講の手引・ホームページに様式添付)、
②返信用封筒(返信先を明記し、82円切手を貼付したもの)
●交付に際して、手数料は必要ありません。そのため、返信用封筒がない場合や交付願による請求でない場合は、発行できませんので、ご注意ください。

Q₃ ワープロを使用する場合、原稿用紙はどのくらいあればよいですか?

- A ●本養成所指定の原稿用紙(様式:A4版・横書き・30字×40行)を使用します。
●本養成所ホームページ(<http://www.aigo.or.jp/yoseijo/>)から【入力フォームやテンプレート】をダウンロードできます。欄外に科目名、課題番号、学籍番号、氏名を記入して下さい。
●評価(採点)する側にとって、読みやすいことが大切です。

Q₄ レポートを送付したいのですが?

- A ●本養成所指定のレポート提出用封筒を使用し、レポート提出期間内に送付してください。
●1通の封筒に上限1kgまで、封入することが可能ですので、各学期提出分のレポート全てをまとめて提出してください。
●郵送中に配達事故が起こる可能性もありますので、レポートをコピーし控えをとる事や簡易書留等の交付記録郵便を利用したの送付をお勧めします。

●●●平成27年度スクーリング日程●●●

	第26期生スクーリングⅢ	第27期生スクーリングⅠ	第27期生スクーリングⅡ
東京会場	平成27年7月25日～26日	平成27年8月21日～23日	平成28年2月27日～28日
仙台会場	平成27年8月1日～2日	平成27年7月31日～8月2日	平成28年2月20日～21日
名古屋会場	平成27年8月8日～9日	平成27年8月7日～9日	平成28年2月13日～14日
大阪会場	平成27年7月19日～20日	平成27年7月18日～20日	平成28年2月6日～7日
福岡会場	平成27年8月29日～30日	平成27年8月28日～30日	平成28年3月5日～6日

国家試験に向けてのおすすめ図書

- 国民の福祉の動向(厚生統計協会)
- 厚生労働白書(厚生労働省)
- 週刊福祉新聞(福祉新聞社)
- 必携社会福祉士(簡井書房)
- 社会福祉士・受験ワークブック(中央法規)
- ワイド版社会福祉小六法(資料付)(ミネルヴァ書房)

知的障害者の福祉の向上を目指す月刊誌

知的障害福祉研究

support

お申し込みは
当協会『さぽーと』係まで平成27年度 購読のご案内
●毎月15日発行
●A4判 68ページ
●1部 596円(税・送料)
●年間購読料6,480円(税・送料)
★当協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます(1部 470円)。
☎ 03-3438-0467 FAX 03-3431-1803
<http://www.aigo.or.jp/>

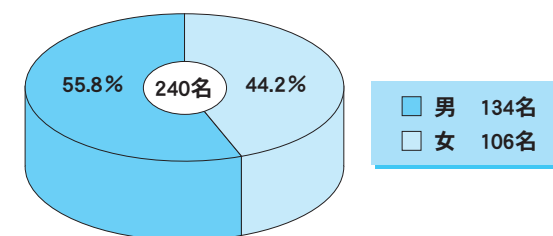
レポートの返却に遅れが生じる等、皆様にご迷惑をおかけいたしました。今後は改善に努めて参りたいと存じます。

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。✉ yoseijo@aigo.or.jp

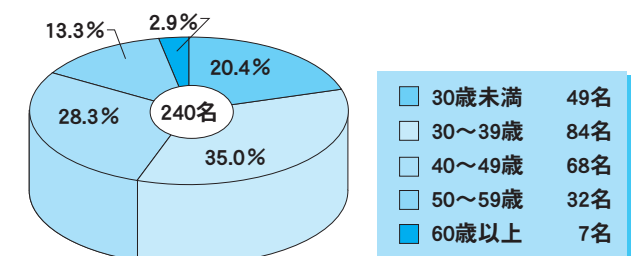
■第27期生の概要 (平成27年4月現在)

第27期生社会福祉士養成所の受講生は、240名です。
概要については下記の通りとなります。

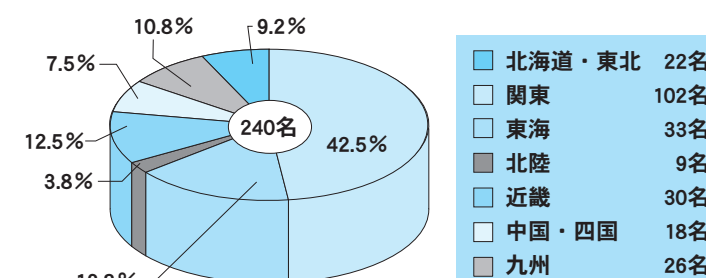
受講生男女比



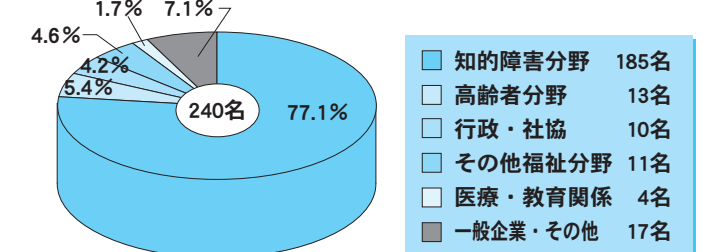
年齢別分布



地区別分布



勤務先種別



第27回国家試験結果報告

第27回社会福祉士国家試験において本養成所より199名（うち26年度修了者100名）が合格しました。昨年度（第26回試験）は196名（うち25年度修了者89名）でした。

これまでの国家試験の結果

	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（％）
第1回試験 第10回試験	52,812	14,076	26.7
第11回試験 第20回試験	333,509	96,847	29.0
第21回試験	46,099	13,436	29.1
第22回試験	43,631	11,989	27.5
第23回試験	43,568	12,255	28.1
第24回試験	42,882	11,282	26.3
第25回試験	42,841	8,058	18.8
第26回試験	45,578	12,540	27.5
第27回試験	45,187	12,181	27.0
合 計	696,107	192,664	27.7

国家試験の結果（養成所修了者）

	総数 合格者 数(名)	新卒			既卒		
		受験者 数(名)	合格者 数(名)	合格率 (%)	受験者 数(名)	合格者 数(名)	合格率 (%)
第16回試験	199						
第17回試験	241						
第18回試験	235						
第19回試験	196						
第20回試験	253	262	146	55.7	408	107	26.2
第21回試験	212	244	124	50.8	434	88	20.3
第22回試験	224	262	133	50.8	423	91	21.5
第23回試験	202	206	101	49.0	426	101	23.7
第24回試験	151	179	73	40.8	440	78	17.7
第25回試験	99	223	57	25.6	427	42	9.8
第26回試験	196	204	89	43.6	561	107	19.1
第27回試験	199	220	100	45.5	535	99	18.5

●第27回社会福祉士国家試験合格基準●（文章一部省略）

次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

- (1) ア 総得点150点に対し、得点88点以上の者（総得点の60％程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。）。
- (2) (1)のAを満たした者のうち、以下の18科目群すべてにおいて得点があった者。
- ①人体の構造と機能及び疾病 ②心理学理論と心理的支援 ③社会理論と社会システム ④現代社会と福祉 ⑤地域福祉の理論と方法 ⑥福祉行財政と福祉計画 ⑦社会保障 ⑧障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ⑨低所得者に対する支援と生活保護制度 ⑩保健医療サービス ⑪権利擁護と成年後見制度 ⑫社会調査の基礎 ⑬相談援助の基礎と専門職 ⑭相談援助の理論と方法 ⑮福祉サービスの組織と経営 ⑯高齢者に対する支援と介護保険制度 ⑰児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 ⑱就労支援サービス、更生保護制度

◆第28回（平成27年度）社会福祉士国家試験（予定）◆

1. 試験の日時及び試験科目

試験日	試験時間	試験科目
平成 28年 1 月 24 日 (日曜日)	午前 10時00分 ～12時15分 (83問)	①人体の構造と機能及び疾病 ⑦社会保障 ②心理学理論と心理的支援 ⑧障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ③社会理論と社会システム ⑨低所得者に対する支援と生活保護制度 ④現代社会と福祉 ⑩保健医療サービス ⑤地域福祉の理論と方法 ⑪権利擁護と成年後見制度 ⑥福祉行財政と福祉計画
	午後 1時45分 ～3時30分 (67問)	⑫社会調査の基礎 ⑯高齢者に対する支援と介護保険制度 ⑬相談援助の基礎と専門職 ⑰児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 ⑭相談援助の理論と方法 ⑱就労支援サービス ⑮福祉サービスの組織と経営 ⑲更生保護制度

2. 受験手数料

7,540円（昨年度例）

3. 受験申込書の受付（提出）期間

平成27年9月10日（木曜日）から10月9日（金曜日）（消印有効）まで

※上記の最新情報、受験申込書類『受験の手引』の請求方法や『出題基準・合格基準』については、社会福祉振興・試験センターのホームページ（<http://www.sssc.or.jp/>）を参照してください。

◆国家試験合格者の声◆

越後谷 恒春さん（第25期生）

ブルーのアルバムに入った「社会福祉士登録証」を手にした時、この2年間の努力がやっと実ったことを実感できた瞬間であった。

今から3年前、第2の人生を高齢者支援などで多少なりとも社会のお役に立ちたいと考え、65歳で介護タクシーを自営で始めた。それが縁で専門職後見人としての社会福祉士の存在を知り、資格取得を目指すことにした。

受験には養成校卒業資格が不可欠とのことで、費用面と実習先が自宅近くにもあることから、当養成所に入学させて頂いた。入学により講師の先生方、同学の仲間と出会えたことが、言うまでもなく今回合格出来た一番の要因であった。

入学し最初に驚いたのは、23冊と大量の教科書が送られてきたこと。読書習慣から遠ざかっていたことに加え、慣れない専門用語の教科書を前にしては、レポート作成に必要な個所を拾い読みするのが精一杯であった。

自分の理解では、一般的にクライアントやニーズと読まれていると思われる用語が、教科書などでクライアントやニードと記載されていることに当初はかなりの違和感を覚えたが、学習を続け

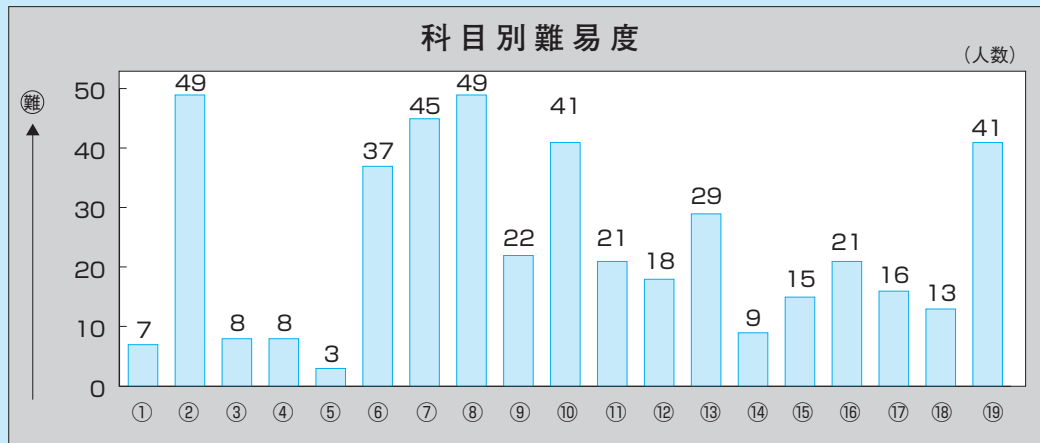
るうち、自分自身ごく自然に馴染むようになっていた。

レポート作成に我々の学生時代と違い、ワードを利用できたことで、提出課題を最後までやり遂げることができた。年齢を重ね、視力の衰えや漢字の書き方を忘れることが多かった現在、手書きの提出では対応が困難であった。

養成所のスクーリングは、教科書や参考書で得た知識を体系づけるだけでなく、年齢を超え多様な経歴の方々と知り合える機会となり、目標達成への大きな刺激にもなった。

受験勉強は、8月の末から始まった東京社会福祉士会の受験講座受講がスタートとなった。その後、中央法規の一問一答アプリの利用、11月からは養成校協会の受験対策web講座も利用した。最初は、学習効果が上がらず、自信を失いそうになったものの、「○×試験で問われるのは、再認能力であって再生能力ではない」ことを信じ、2回受けた模試の結果が出ないことにもめげることなく受験勉強を続けることができた。特に12月と1月の年末年始は、忘年会や新年会などを欠席し、極力試験勉強に集中できるようにした。また、インフルエンザ予防注射も生まれて初めて接種するなど体調管理も万全にして受験に臨んだ。

第26回国家試験に関するアンケートについて



平成26年11月に修了した第25期生252名を調査対象とし、188名（①受験をした161名、②申込をしたが当日受験しなかった6名、③申込をしなかった9名）からの回答が得られました。

図は受験者の回答をもとに難易度数（難しいと答えた人数）を示しています。

横（項目）軸の囲み数字は、試験科目の囲み数字の科目名を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収していますので、未提出の方は早急に提出してください。

<第27回国家試験に関するアンケート>

●学習の工夫点・反省点・アドバイス等（合格者の声）

- ・2年目の春頃から少しずつですが、約半年くらいかけて基礎を固める勉強を、参考書を使って行いました。ただ、基礎を身に付けるだけでは、試験での得点力にかなり欠けていて、11月の模擬試験では、6割に及ばず、少しずつですが努力していたこともあり、大変落ち込みました。今回、合格することは難しいのでは…とも思いましたが、とにかく残り3ヶ月で得点力をつけようと、11月から試験までは、とにかく過去問4年分と模試を繰り返し行い、間違えた問題は解説を熟読し、頭にたたき込みました。
- ・10月頃より模擬問題集→解説を読み込む→わからないことは国試ナビなどで関連事項を確認というやり方が自分には合っていました。最初はとにかく時間にこだわらず、内容確認と定着を意識しました。1月に入ってからスピードを意識して解くようにしました。
- ・参加者の多い模擬試験をできれば2回受けると良い。1回目は、頭で考えていた時間配分の実践、2回目は1回目の行動から本試験に向けての実践。
- ・試験は時間との戦いなので、各問題の時間配分を決め、日頃から時間をはかって解き、2択まで絞って、どちらにするか悩んだ時の自分の決め手をもつことを心がけ、過去問に取り組んだことも良い結果につながったと感じました。
- ・過去問解説を読み解きながら、自分だけのワークブックを作成する日々だった。
- ・多くのテキストに手を出さず、1～2冊を反復して勉強した。
- ・科目単体ではなく、横断的に全体図をイメージしながら学習しました。
- ・受験に関係ないものは極力押入れにしまった。
- ・あまり多くの参考書には手を付けず、全科目が1冊にまとまっているものを繰り返し使い、学習した。

るものを繰り返し使い、学習した。

- ・「最後は気持ちです」と強くアドバイスを受けたことが印象に残り、最後まであきらめずにジタバタしました。
- ・養成所の「ウォーミングアップテスト」で全科目の基礎をやり直し、「最終チェック！国家試験頻出問題集」を受験直前には何度も解いた。おかげで何とか間に合った。
- ・仕事の日でも、20～30分程度でも勉強し、継続すること。
- ・新聞やニュースで福祉ネタのものは必ず目を通した。
- ・「あきらめない」を口癖にしました。
- ・地道に勉強することです。

●残念ながら、合格できなかった方々からの反省とコメント

- ・科目についての基礎理解ができていないまま試験に臨んでしまった。
- ・過去問しかやらなかったが、教科書を見てまとめるという工夫も必要だと思った。
- ・ただ名称を覚えるだけでなく、深い勉強が必要だった。
- ・多くのテキストを購入してしまい、どれもが中途半端になってしまった。
- ・苦手な科目を意識しすぎて、結局すべてが中途半端になった。
- ・絶対、模擬試験を受けた方がよい。時間配分の感覚が大事。
- ・素早く問題を読み、1問1分で解く練習を十分に行う必要がある。
- ・模擬試験を受け、自分の学力を客観的に見ながら、弱点を強化していく必要がある。
- ・5択中2択が増えていたが、焦って1つしか選択しなかった。
- ・試験中、最後まで、あきらめなければ良かった。
- ・早い時期から試験対策をするべきだったと思う。
- ・来年は合格できるよう、朝、勉強をしていきます。